

2024年3月度定例理事会 承認

2024(令和6)年度

事業計画書

2024年4月1日から
2025年3月31日まで

公益社団法人 日本ラクロス協会



【環境認識】

2023年度、フランスでのラグビーW杯をはじめとした国際メガスポーツイベントが盛り上がりを見せ、特に日本で開催されたバスケットボールW杯において、日本代表チームのパリ五輪出場決定は大きな注目を集めました。また、世界のプロスポーツにおける多くの日本人アスリートの活躍が報じられています。しかしながら、国内の学生スポーツ界は、コロナ禍の影響や少子高齢化等で、部員数・チーム数の減少傾向が継続しています。

ラクロスにおいても、6月に男子世界選手権大会(フル代表)が米国サンディエゴで開催され、日本代表(5位)・審判団は、着実な成果を残しました。また女子代表選手が、米国NCAA1部の大学チームで活躍する等、日本人選手のプレゼンスが着実に向上しました。国内では、地区リーグ戦、大学・クラブ・新人選手権、A1(全日本選手権)を開催し、対面コミュニケーションの機会増を地道に継続し、連盟本部・地区の活動量の引上げに尽力した1年となりました。但し、大学1年生の入部者数は下げ止まりつつあるものの、引き続きの施策強化が必要です。

一方で、10月に2028年ロス五輪のラクロス正式競技化、1月に2026年女子・2027年男子の世界選手権大会の日本開催がそれぞれ決定し、日本ラクロスにとって新しい扉が開かれた年になりました。

JLAの歴史上、かつてないほど外部環境が変化する5年間がスタートすることになり、組織基盤である会員数の底上げに再注力しつつも、ジュニアをはじめとした新しい世代に対するアプローチを強化すると同時に、強固な財政基盤を構築するために、理念を共有できる大口協賛パートナーとの更なる連携、助成金の活用等、収入の多様化を推進しました。

今年度は中長期戦略を策定しつつ、人的リソース拡充を含む先行投資に舵をきり、更に執行力を強化するとともに、JOCへの加盟を目指す節目の年となります。

【基本方針】 Grow the Game 元年＝「ラクロスという競技を育てる」最初の年

①成長に必要な3つのベースを整える。

[インフラの整備・強化] ①各地区の管理業務の負担緩和(経費精算等の膨大な事務作業等への支援)、②優先度の高い地域への連絡事務所(兼倉庫)の設置(成長の土台となる「人とモノが集まるコミュニケーションスペース」)、③全国会議などによる地区/部門横断的な交流機会の増加、④本部人員の強化(事業の急拡大と基幹業務の増大に対する人的リソース拡充)、⑤戦略的な予算投下(各地区におけるジュニア対象事業への支援等)に取り組みます。

[制度・仕組みの整備] ①各地区における部門の役割整理(強化部等)、②環境変化により役割が曖昧となった部門の再定義(普及部等)、③現状の組織では対応できない事柄に対応する仕組みの新設(強化協議会等)に取り組みます。

[成長のビジョンを描く] インフラ、制度、ミッションの整備後、各現場のリーダーが、未来に想いを馳せて人を巻き込みながらGrow the Gameの旗を立てます。

②重点施策

<地区>

[FPJの継続強化] 全ての活動の基盤になる新規会員獲得は継続して最優先事項であり、本部によるサポートを強化します。

[集客強化と観戦体験の向上] A1(全日本選手権)・ロス五輪正式競技化を経て「観るスポーツ」としての側面を発展させます。

<本部>

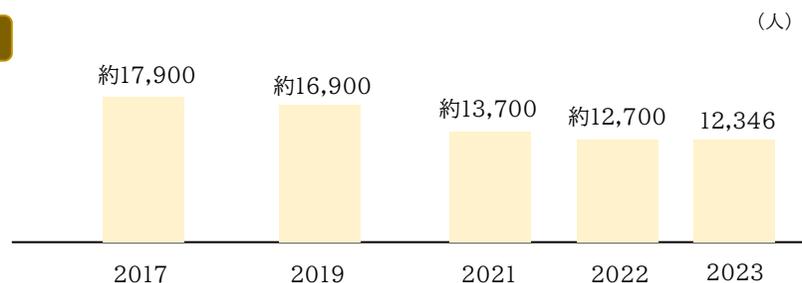
[ジュニア・若年層] ”普及部”の再編と機能の再構築に取り組みます。

[広報、PR] メディア対応の機会増・広報/PRの重要度増により、危機対応も見据えた体制を整備します。

[強化の整備] 強化方針について、部門を横断して議論する場(強化協議会)を設置します。

【参考：当会概況】

競技会員数



競技会員数は2017年の17,900人をピークに減少。特に2020年以降はコロナ禍により大幅減。ピーク時より約5,000人少ない状況で、この水準はしばらく継続する見込みです。

会費収入は2017年の約2億2000万円に対して、会員数減により、2023年度は約6700万円減となる1億5300万円での着地見込みです。

会費収入



2024年度は、コロナ禍を経て全面的に見直した経費を水準としながらも、人員リソースの拡充などを推進します。一方でマーケティング強化による協賛収入増を目指すことにより、今年度は収支均衡の予算を計画しています。

【主要事業計画①】

事業	目的	概要	事業番号
審判	質の高い試合増加に寄与するための審判資格のクオリティー維持発展	1級審判員の継続的輩出に向けた若手審判員の育成や、現会員以外からの審判活動への参加の推進に取り組めます。従来の育成プログラムに加え、競技性の向上に合わせた判断基準と、ゲームマネジメントを理解する審判員を増やすための教育プログラムの検討や、審判員の評価プログラム見直し等を新たに実施します。またジュニアラクロスやSIXES(6人制)など幅広い年代と競技性に対応すべく準備していきます。	(1) (3)
指導者	指導者資格のクオリティー向上と資格取得者による指導者指導の展開	昨年度に見直した新指導者制度への移行に伴い、認定指導者の増加、質の向上に取り組む、競技レベルの底上げに繋げていきます。最上位級であるS級による、主にコーチデベロッパーとしての指導者指導を展開できる体制づくりに着手します。	(2) (4)
選手育成	対面コミュニケーションの活性化	昨年に引き続き主将研修や学連役員研修を重視し、大学チームの垣根や地区の枠を超えた交流を更に推進します。特に運営規模が広域に跨る東北・中四国には予算支援を行う等により、全地区での対面コミュニケーションの活性化に取り組めます。	(4) (5)
普及	ジュニアラクロスの更なる普及	U-12世代を対象とした「ジュニアラクロス」の大会を引き続き開催しながら、今後発展するための基盤を整備すべく、審判・指導者・ルール等の仕組みづくりにも着手します。2023年末の単日大会に関西・東海・東北から参加チームもあり、更なる全国への普及拡大に繋がります。	(5) (6)
大会運営	高度化した全国大会の運営力強化とクオリティーの高いリーグ戦運営	2026-27年の世界選手権大会を見据えつつ、Grow the Game元年をテーマに、それぞれの持ち場で「ラクロスの未来」を描くための体制を整え、今後の成長の礎となる年とします。 全国大会の価値を高めると同時に、JLAの土台である各地区リーグ戦運営に一層注力し、Welcome Match実施等の施策を継続拡充するとともに、「観るスポーツ」としての側面を発展させることで、集客機運を高め、各大会の観客動員増を目指します。 また、マッチコミッショナー並びにゲームディレクターをはじめとする運営体制の更なる強化、夏季の酷暑時期の試合開催について更なる対策を検討し、着実に取り組めます。	(6)
日本代表	世界の強豪の一角としてのボトムアップ強化	JLA初のボックスラクロス世界選手権大会への参加、SIXESへの対応、各大陸予選の導入によって、大幅に増える日本代表活動の成果を日本ラクロス全体の底上げにつなげ、その結果として日本代表が更に飛躍する、という循環を構築すべく、代表活動の積極的な情報発信、各地区強化活動との連携を進めます。また、様々な形で競技の発展に貢献する日本代表選手の輩出に取り組めます。	(6)

【主要事業計画②】

事業	目的	概要	事業番号
国際	国際交流事業の強化	中長期的に海外遠征者数を増やし、競技レベル向上と時代に合わせた国際交流を促進できるような体制を再構築します。国際大会の開催や、海外チームを積極招聘すると同時に、若年層の国際交流も展開し、長期的に国際社会で活躍できるような人材輩出に寄与します。また、JLA独自の視点でアジアラクロスの発展に貢献し、2026女子・2027男子に日本で開催される世界選手権大会の運営の一端を担えるよう、組織を拡充します。	(6)
マーケティング	ラクロス価値向上と協賛獲得	企業とのパートナーシップの形式として、National Team(日本代表)、Competition(大会)、Culture(文化、競技外活動)の3点を整備します。中・長期的視点で安定した財務を構築する為、幅広いポートフォリオを積み上げます。一方で、様々な企業との協業により日本ラクロスの価値向上を図ります。	(6)
広報	web事業の発信強化	社会的注目が高まる中、ラクロスの基礎情報や日本代表情報等をより広く発信するため、マスメディアとの関係構築・連携に取り組みます。また、公式web/SNSにより発信される情報の正確性・速報性の向上、Japan Lacrosse Liveの配信映像の品質向上により、更なるコミュニティの活性化を推進します。	(7)
安全対策	安全対策における組織力強化	医科学委員会内の3部会(安全対策部会、アンチ・ドーピング部会、アスリートパフォーマンス部会)の活動を軸に安全対策における更なる組織力の強化を図ります。ジュニアから日本代表まで、全てのレベルで安全・安心で高品質なラクロスを楽しめるよう安全対策を推進します。また、より効果的な安全管理が可能となるようSG(Safety Guard)体制を整備し、将来のビジョンを構築していくとともに、全国のSG代表者と連携し、実地講習会やWEBセミナー開催等によって安全対策に対する啓発活動を行います。	(7)
ガバナンス	実効性のある法人基盤整備	2023年12月に内閣府の初回立入検査を終え、公益法人として基本的な体制は構築できたといえます。今後は、2024年度中のJOC加盟申請に向け、＜中央競技団体向け＞スポーツガバナンスコードを踏まえながらも、JLAの独自性を失わない組織体制を構築し、組織の成熟度を上げていきます。	法人
戦略企画	中長期事業戦略の策定	2026/2027年の世界選手権大会の日本開催、2028年のロス五輪を経た後の、2029年における日本ラクロスの姿・情景を具体的に描くことを一歩目として、中長期戦略の策定に着手します。	法人

【JLAの公益目的事業番号】

○資格付与

(1)審判資格認定事業

(2)指導者資格認定事業

○講座、セミナー、育成

(3)審判養成事業

(4)選手育成事業

○体験活動等

(5)初心者体験会事業

○競技会

(6)大会開催事業(全国大会、国際親善試合、その他主催大会)

○上記事業区分に該当しない

(7)広報普及活動

※上記番号は、公益認定申請書の記載内容に基づく。

【会員数】

会員種別	2023年度実績
競技団体会員	266団体
競技会員	12,346人
賛助会員(個人)	111人
賛助会員(団体)	0団体
協力会員	71人